

Q10

SpaceOARを使うと多くのケースで性機能が温存されるのはなぜですか？

A10

尿道球部(Penile Bulb)の線量が下がるためです。

解説

米国で行われた第3相試験の後解析によると、治療前に十分な勃起能を有していた患者が治療3年後も性交に十分な硬度を保持できる割合は、SpaceOAR群が66.7%、対照群が37.5%($P = 0.046$)でした。

尿道球部の線量について、mean dose(11 vs 21 Gy), max dose(36 vs 46 Gy), V10からV30までのすべてにおいて、SpaceOAR群では対照群より低く抑えられていました($P < 0.05$, 図15)。性交に十分な勃起能と、尿道球部 mean doseとの間には、逆相関の関係が認められました($P = 0.03$, 図16)¹²⁾。

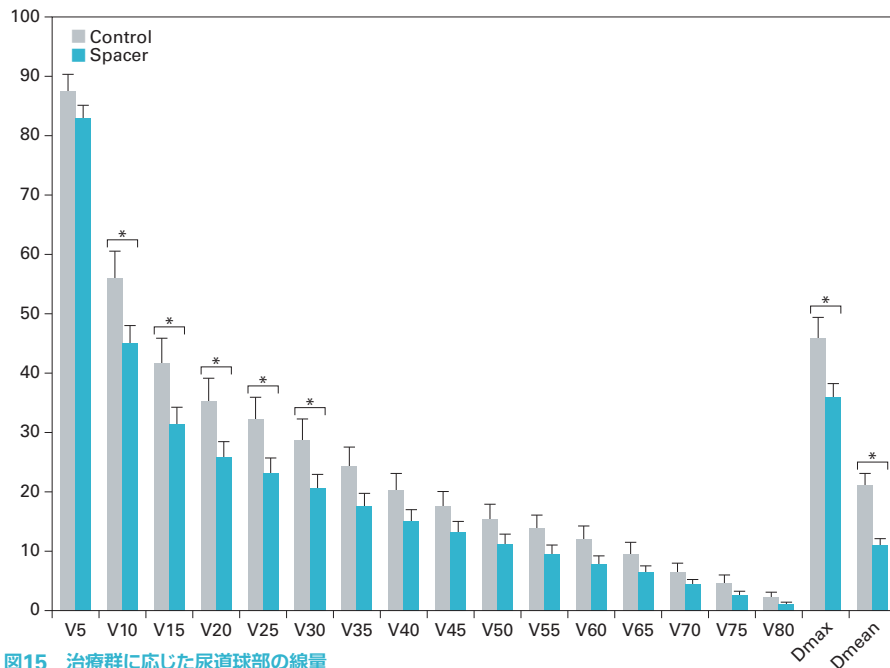


図15 治療群に応じた尿道球部の線量

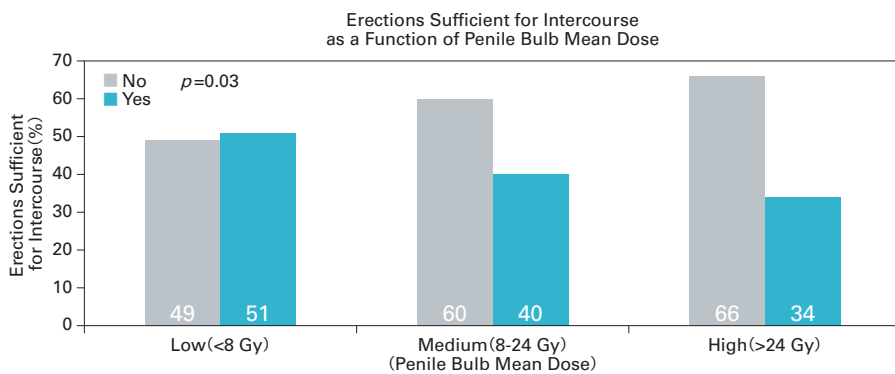


図16 尿道球部 mean dose と性交に十分な勃起能の相関関係

治療計画において、尿道球部の線量も意識しましょう。

参考文献
12) Hamstra DA, Mariados N, Sylvester J, et al. Sexual quality of life following prostate intensity modulated radiation therapy (IMRT) with a rectal/prostate spacer: Secondary analysis of a phase 3 trial. Pract Radiat Oncol. 2018;8:e7-e15.